サンケイスポーツ　平成29年（2017年）2月15日　水曜日　（第三種郵便物認可）

緊急連載 東京五輪ゴルフ会場問題の真相

【社会面】

緊急連載 真相 東京五輪ゴルフ会場問題（上）

「50」から「10」に候補コースを絞る段階で消えた「若洲」

2020年東京五輪のゴルフ会場「霞ヶ関CC」（埼玉県川越市）を巡り、今年に入って突然〝問題〟が浮上した。女性の正会員を認めていないとして国際オリンピック委員会（IOC）が改善を求める事態に発展。綿密な選定作業を経て12年に会場を決めたはずだが…。一体、どこで〝脇道〟にそれていったのか？　選定の実情を知る人物を直撃。経緯を振り返りながら、全3回で問題の全容と今後を探る。

数十項目の条件

東京五輪を巡るトラブルが〝問題〟となっているのがゴルフ会場。国内屈指の名門として知られる「霞ヶ関CC」だ。

「五輪のゴルフ競技会場として、都側からの条件は『選手村から50キロ以内』のみでしたが、国際ゴルフ連盟（IGF）からは多くの条件が提示されました」

日本ゴルフ協会（JGA）などの国内主要競技団体が都の担当者とともに2012年4月に設置した「五輪ゴルフ競技対策本部」で、一貫して会場選定に携わってきた山中博史副本部長（53）が明かす。

国際大会の豊富な経験を持つIGFが求める五輪ゴルフ会場の基準は、「1日2万5000人以上のギャラリー収容能力」「メディアセンターや練習場の建設」から、「距離300ヤード（約275メートル）以上を持つ練習場」「コース改修の場合の資金源の報告」など、数十項目にも及ぶ。

一部でいまも開催地にとの主張がある東京都の公約施設「若洲ゴルフリンクス」（江東区）は、おおまかな開催プランを示す招致初期段階の「招致申請ファイル」（12年2月）で唯一の候補地として名が記載されていた。しかし前述の条件などを検討する選定作業の中で、早期のうちに候補から漏れた。12年4月の段階で50コースほどの候補から10コースに絞られたが、「若洲」は外れていた。

当初の「招致申請ファイル」では、なぜ「若洲」だったのか。山中氏は言う。

※「都の招致委員会」について
東京都が2020年オリンピック開催地に決定する以前はまだ準備委員会が設立されておらず、「東京都スポーツ振興局招致推進部」が窓口となって招致を進めておりました。この部署のことを”都の招致委員会”と呼んでおります。

東京五輪決定前から

12年にIGFが、13年にはIOCも視察

「霞ヶ関CC」開催＝国際公約、

国内屈指の名門として知られる霞ヶ関CC。五輪に向けた大幅なコース改造も行ったが…＝埼玉県川越市

「都側も『とても若洲では無理』との結論になったんです」

その後、10コースから5コースに絞られ、12年5月に優先順位1位を「霞ヶ関CC」、2位を「横浜CC」（横浜市）として2カ所を選定。同月には東京が20年大会の正式立候補地3都市に入った。霞ヶ関CCの規則が記された定款やコース情報など各種書類は都が、都が『暫定的に出します』と提出した。

霞ヶ関CCが36ホールなのに対し、若洲は18ホールでギャラリー収容人数もIGFの基準の3分の1以下の約7000人。コース改修の可能性に加え、ギャラリー用施設やクラブハウス、練習場などを設置するなど用地確保にも限界があった。数十項目もの条件を満たすには相当規模の改造が必要で、「『少なくとも100億円くらいはかかる』と都に報告した」。一方、都の担当者を全英オープンに連れて行くなどして、メジャートーナメントも見てもらった。その結果―。

「こうした実情を知った都側も『とても若洲では無理』との結論になったんです」

その後、10コースから5コースに絞られ、12年5月に優先順位1位を「霞ヶ関CC」、2位を「横浜CC」（横浜市）として2カ所を選定。同月には東京が20年大会の正式立候補地3都市に入った。霞ヶ関CCの規則が記された定款やコース情報など各種書類は都で自由の利く若洲の名前を入れたい』と要望してきた。われわれは反対した

3年以上を経て…IOCから指摘

「女性正会員」巡る騒動が

翌13年9月、IOC総会で「TOKYO」での開催が決定。しかし3年以上が経過して、関係者全員が「ひっくり返るような出来事」が起きた。「女性正会員」を巡る〝炎上〟だった。

年11月に霞ヶ関CCを初めて視察して、高評価の後もコース改造のチェックなどで十数回来ています。霞ヶ関CC側も十数億円とも言われる費用を自費で改造した。これで終わったはずで、霞ヶ関CCで開催することは〝国際公約〟だと思っていました」

IGFが12年11月に霞ヶ関CCを初めて視察して、高評価の後もコース改造のチェックなどで十数回来ています。霞ヶ関CC側も十数億円とも言われる費用を自費で改造した。これで終わったはずで、霞ヶ関CCで開催することは〝国際公約〟だと思っていました」

翌13年9月、IOC総会で「TOKYO」での開催が決定。しかし3年以上が経過して、関係者全員が「ひっくり返るような出来事」が起きた。「女性正会員」を巡る〝炎上〟だった。

記載された。

「IGFが12年11月に霞ヶ関CCを初めて視察して、高評価の後もコース改造のチェックなどで十数回来ています。霞ヶ関CC側も十数億円とも言われる費用を自費で改造した。これで終わったはずで、霞ヶ関CCで開催することは〝国際公約〟だと思っていました」

翌13年9月、IOC総会で「TOKYO」での開催が決定。しかし3年以上が経過して、関係者全員が「ひっくり返るような出来事」が起きた。「女性正会員」を巡る〝炎上〟だった。

東京都が所有するパブリックコースの「若洲ゴルフリンクス」　―東京都江東区

◆IGFの求める五輪ゴルフ会場の条件（一部）◆

【ギャラリー収容人数】
1日2万5000人以上。ギャラリー用の駐車場やスポンサーのテント用のスペースも確保

【練習場】
コースと同じ芝を使い、距離300ヤード（約275メートル）以上を確保。クラブハウスも設置

【メディアセンター】
6000平方メートル以上。テレビ放送センターも別に設置

【コースの改修】
会員による投票で賛同を得た上で、資金源の詳細も報告

【環境調査など】
コース内の水質、土壌や地下水の分析結果の報告。コース保全に使用する農薬などの情報も提出

【差別の撤廃】
雇用や会員の方針に人種、性別、国籍、宗教による差別がないと確認できる書簡を提出

◆東京五輪ゴルフ会場を巡る主な経緯◆

2011・7・16		東京都が2020年の五輪・パラリンピック招致に立候補
7・25		都の招致推進部が若洲開催を各ゴルフ団体に打診
2012・2・13		都が招致申請ファイルを提出。若洲開催を記載
4・11		五輪ゴルフ競技対策本部設置。国際ゴルフ連盟（IGF）の五輪開催基準が明らかになり、若洲を除外。相模原、戸塚など10コースを選定
4・12		10コースを5コースに絞る
5・9		5コースから優先順位1位霞ヶ関、同2位横浜に絞る
5・23		東京がイスタンブール、マドリードと並んで正式立候補地に決まる
8・30		都が対策本部に霞ヶ関、横浜の合格を報告。同時に10月中に1会場へ絞り込みを要請
10・30		対策本部が霞ヶ関に絞る
11・6		霞ヶ関側が五輪での使用を承認
11・14,15		IGFが霞ヶ関視察
12・3		IGFから霞ヶ関での五輪開催同意書を得る
12・20		JGA臨時理事会が霞ヶ関開催を承認
2013・1・7		都がIOCに立候補ファイル提出。霞ヶ関開催を明記
1・8		ファイル提出を受け、対策本部が霞ヶ関開催を発表
3・5		IOC評価委員会が霞ヶ関視察
9・7		IOC総会にて東京開催決定
2017・1・4		組織委の森喜朗会長が霞ヶ関CCの輸送面の問題などを指摘
1・13		小池百合子都知事が女性が正会員になれないことに違和感を表明
1・20		IOCがJGAに改善を求めてきたことが判明
1・27		IOCが組織委に改善を要請したと公表

五輪ゴルフ競技対策本部 山中副本部長を直撃

山中　博史（やまなか・ひろし）1963（昭和38）年6月13日生まれ、東京都板橋区出身。浦和ルーテル学院中3年の78年「日本ジュニア選手権（中学生の部）」優勝。浦和ルーテル学院高から明大。88～93年にはメジャー20大会以上で青木功のキャディーも務めた。日本ゴルフツアー機構専務理事などを経て、2005年に日本ゴルフ協会に移り現在は専務理事。昨年12月から「五輪ゴルフ競技対策本部」副本部長。昨年のリオデジャネイロ五輪ではゴルフ日本代表のチームリーダーも務めた。